

多数決における間接的民主制の正当性

The Legitimacy of Indirect Democracy in majority Decision-Marking

1250209 木野戸 梨々夏

Ririka Kinoto

本研究では、意思決定に用いる多数決における間接的民主制について検討した。

間接的民主制は、現代の多くの国家で採用される政治体制であり、多数決はその中核的な意思決定手法である。一方で、拮抗した少数意見が軽視されることなどの問題も指摘されている。

本研究では、意見が他者との話し合いによって影響を受ける場合、少数派にも勝機が生まれる可能性を、モンテカルロ法による簡易モデルを用いて検証した。

具体的には、グループサイズを rr 、グループ数を $gg=rr$ 、全体の人数を $nn=rr*gg$ とし、他者の意見を変える影響力を持つ「カリスマ」を賛成派 na 、反対派 nb と設定して賛成派の勝率を数え上げた。

その結果、賛否の割合と賛成派の勝率が同等である場合、この間接的民主制は公平・平等な意思決定を実現していることを示す。